

「ひとあかり」の光は会場をやさしく包みました(写真⑤)。7月に熊本市で行われた県商工会連合会主催の若手経営者の主張県大会では松永さんが代表して「ひとあかり」を発表し、大津町商工会として見事優勝(写真⑥)。9月13日行われた九州大会へと進み、感謝の気持ちを届けました。



Public relations
OZU TOWN
広報 おおづ 2017 10



「ひとあかり」はQRコードを読み込むか、パソコン・携帯で検索して見るができます



大津町商工会青年部

若手経営者の集まりで熊本地震復興記念イベントを成功させた、大津町商工会青年部をクローズアップする。監事として活躍中の松永淳哉さん(前列右から3番目)に話を聞いた。

大津町商工会青年部は同商工会の中にあり、20〜40代の若手経営者たちが集まっている団体。構成部員は34人で、例年の活動は、月一回の会議、地域貢献活動としての祭りの出店。そして、経営者としての資質向上のために自分を日夜磨くこと。

そんな「日常」を打ち破ったのが「地震」。「部員の中にも家や事業のたて直しに苦勞をした人もいて、我が家も柱が折れ、天井が落ち、大規模半壊でした」と苦い表情の松永さん。

「地震から半年たったある会議の中で一人の部員から『自分の事ばかりで私たちは全国の支援に対する感謝の気持ちを忘れていたのではないか』という問いかけがあり、その場に衝撃が走りました。」

それが「ひとあかり」のきっかけだった。本震から1年たった4月16日にペンライトを使い、500人で「ありがとう」の光の文字を作り、上空から撮影。そして、支援に対する感謝の気持ちと一緒に動画を全国に届けるという内容がその後の会議で決まり、実現に向けた試行錯誤が始まった。

前日まで人を集めるのに苦心し、多くの部員が奔走した。「難しいのか」そんな思いが頭をよぎる中、ギリギリまで準備を続ける。

当日、時間が近くなるとポツポツと人が集まり始め、蓋を開けてみれば600人を超え、用意していたペンライトが足りなくなるほどだった。そして、イベントは成功。

「同じ気持ちの人がこんなにいるのだと胸がいっぱいになった」と目を細める松永さん。

仲間同士の絆は地震を乗り越え、より強いものになった。「感謝の気持ちを忘れない」彼らの心に改めて刻まれた一見当たり前のルールは、体験を通して彼らの心に優しい光を灯している。

こころの声

▼「ひとあかり」の動画をまだご覧になっていない人はぜひ▼パソコンか携帯電話を使って動画サイトで「ひとあかり」を検索するか、上のQRコードを読み込むと見ることが出来ます▼お世話になった全国の皆さんにも感謝の詰まった動画を教えてください▼松永さんの言葉▼感謝の気持ちが届きますように▼さて、感謝といえば大津地蔵祭の花火。有言実行した実行委員会の皆さんと、祭りに参加した皆さんの姿を見て、町をさらに誇らしく思いました(MDEO)

からいもくん便り

大津町総合情報メール 携帯電話やパソコンのメール機能を活用して、生活に役立つさまざまな情報をお知らせするシステムです。

登録方法: ozutown@gw.ansin-anzen.jpに空メールを送信してください(スマートフォンの場合は件名に任意の1文字「あ」などを入力して送信)。



QRコード

UD FONT 風やすく読みまちがえにくいフォントを採用しています。

発行・編集 大津町・総務課 熊本市東区大津町大字大津 1233 番地 TEL.096(293)3111 http://www.town.ozu.kumamoto.jp/ ※広報おおづは環境に配慮して再生紙と植物インクを使っています。

想いをのせて

大津地蔵祭

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報 おおづ

10 OCTOBER 2017

